

平成 21 年度 企業内家庭教育学習講座 株式会社ファンケル美健 滋賀工場

「人が企業が輝くために ～大事にしていますか？コミュニケーション～」

期日 平成 21 年 7 月 24 日 (金)
時間 午後 3 時 30 分 ~ 午後 5 時
会場 研修室
対象 職員 22 名
講師 藤野智誠氏



滋賀県家庭教育協力企業協定制度締結企業

1, はじめに

- (1) 呼び戻せ「日本人のDNA」 コミュニケーションの原点を考えるために、現在の状況から考えよう。
大人の幼児化 家庭のホテル化・社会の学習化・学校の生活化
3つの知を考える 「遺伝子知」は人間は脆弱である。「経験知」は、動物も同じ。
「学習知」において人間は優れている。
一日一善 3日で3悪(自利利他)の考え方。まず、自分のためにすることが人のためになっていく。
過度の学歴社会(人間性の陶冶と偏差値)がもたらしたこと
やさしくきずつきやすい・受動的・人付き合い苦手・らちがない(物事の区別がなく乱雑である)
・自分の言葉で話せない・怒られているが叱られてない
- (2) 世代分離の生涯学習から異年齢が交流する生涯学習へ
- (3) ふるさとをとりもどせ(人と人のつながり)
“隣づきあいより遠い友達”になっていないか。地域に群がりがあるか。



2, 「和譜」

- (1) 人と自然から考えよう
八百よろずの神 人間を超える「自然」を使つての教えの大切さ
道徳と宗教 愛鳥週間 2つのありがとう
命 身の回りの歌や話で命の大切さを伝えるものを大切にしたい
- (2) 人とひとから考えよう
父と子 運動靴を洗う父(厳しい言葉の中にも子を思う父の姿を見せること)
母と子 柱も痛い 一杯のかけそば(子の思いを共有する、包み込む母の姿)
妻と姑 落語の毒薬(思いやることで初めて相手を理解できる)
夫婦 愛は感謝(一番そばにいる大事な人に感謝の気持ちを伝えているか)
教える側と教えられる側 心を開く・届く言葉を 聞く(問う)・待つ・譲る・一体化する
「どうしたんや?」「君らしくないね」
自分を問われることほど効く言葉はない。



- (3) 人と社会から考えよう
三方よし、江戸の水売り、アフリカの靴売りの話から
自分を磨くことが地域への貢献につながっていく。
コミュニケーションは、相手に問うことによって言葉がつながっていく。
地獄と極楽(長い箸を自分だけが食べるために使うか、相手に食べさせてあげるか)

(4) 人から考えよう

遺伝子の脆弱な人間 子育ては、学習知、経験知である。
幼稚園・保育園では「30分の1」(自分は、クラスの30人の内の一人である)ということを知り、順番を待つこと、たくさんの人の中で生活していくことを知る。

夢・信・汗

夢追いかければ 必ず叶う
信じる道進めば 夢近づく
その道汗すれば 日々楽しい
夢あればこそ 己が動き 周りも動く
信あれば 己が強く 周りが温かい
汗あれば 己がこち良く 周りが豊かとなる